

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第7部門第1区分
 【発行日】令和6年11月5日(2024.11.5)

【国際公開番号】WO2023/162710
 【出願番号】特願2024-503012(P2024-503012)

【国際特許分類】
 H 0 1 M 1 0 / 0 5 8 7 (2 0 1 0 . 0 1)
 H 0 1 M 1 0 / 0 5 2 (2 0 1 0 . 0 1)

【 F I 】
 H 0 1 M 1 0 / 0 5 8 7
 H 0 1 M 1 0 / 0 5 2

10

【手続補正書】
 【提出日】令和6年8月15日(2024.8.15)

【手続補正1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0020
 【補正方法】変更

【補正の内容】
 【0020】

20

本実施形態では、正極リード20を、正極芯体41における巻回方向の中央部等の中間部に電氣的に接続している。また、負極リード21を、負極芯体51における巻き始め側端部に電氣的に接続すると共に負極芯体51における巻き終わり側端部を外装缶16の内面に当接させている。このようにして、負極12の巻き始め側と巻き終わり側の両方を負極端子に電氣的に接続することで電流が流れる経路を低減して電気抵抗を低減している。しかし、負極芯体51における巻き終わり側端部を外装缶の内面に当接させずに、1つの負極リードを、負極芯体における巻き終わり側端部に電氣的に接続してもよい。又は、電極体が2つの負極リードを有して、一方の負極リードを、負極芯体における巻き始め側端部に電氣的に接続し、他方の負極リードを、負極芯体における巻き終わり側端部に電氣的に接続してもよい。又は、負極リードを用いず、負極芯体における巻き終わり側端部を外装缶の内面に当接させることで、負極と外装缶を電氣的に接続してもよい。

30

【手続補正2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0028
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【0028】

対向部58から巻き始め側に1/4周巻回された位置よりも巻き終わり側に位置することが好ましい。このように屈曲部71が正極11の始端部11aに近接することで上記効果が顕著に発揮される。屈曲部71の巻き終わり側の端71bと屈曲部71の巻き始め側の端71cとの径方向の差が20 μ m以上であると、負極12が始端部11a側に接近することを確実に抑制できる。屈曲部71の巻外側の端71bと屈曲部71の巻内側の端71cとの径方向の差が400 μ m以下であると、巻回方向で均一な正負極間距離を実現し易くて好ましい。

40

50